

小学校 第6学年 道徳科 学習指導案

北海道教育大学附属旭川小学校
教諭 成田 翔

主題名 かけがえのない命

教材名 あかはなそえじ（1時間）

内容項目 D 生命の尊さ

**本時の
ねらい** 副島先生と子どもたちとの関わりをとおして、生を全うする大切さや命の継続性について考え、限りある生命を懸命に生きようとする態度を育てる。

指導時期 1月中旬ごろ

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

本教材には、主人公の生き方にふれることで情意を揺さぶる要素があるため、教材範読では「心が動いた部分」を視点に読み進める。範読後には、児童一人一人が感じたことを即時的に共有するため、「指導者用デジタル教材」を活用する。その際、「なぜ、その部分に心を動かされたのか」を確認しながら進めることで、多面的・多角的な思考へと発展させることができると考える。

また、中心発問に対する考えを共有する場面では、「思考ツール（ウェビング）」を活用し、大型モニターに映し出しながら議論を進める。児童の考えが思考ツール上で可視化されることで話し合いが活性化し、複数の児童の考えが有機的に結びつくことが期待できる。その結果、児童の考えを広げ、深めることができると考える。

本時の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時で扱う価値への導入を図る。 ■ T：「命」と聞いて、どのようなことを考えますか。 ◎：命は大切なもの。 ◎：命はなくなったらもたにはもどらない。 ◎：命はたった一つしかないもの。 ● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	

- 『あかはなそえじ』を読んで、心が動いたところを出し合い、交流する。
- T**：いちばん心が動いたところはどこですか。また、それはなぜですか。
- ◎：亡くなる前の日まで算数の勉強をしているところが心に残った。最後の最後まで今できることに取り組んでいてすごいと思った。
- ◎：重い病気を抱えているのに、将来何をやりたいか目標をもっていてすごいと思った。
- ◎：亡くなった男の子との約束を守って、副島先生が今でも活動を続けているところが心に残った。

- 教材を読む前に、「指導者用デジタル教材」の二次元コードから「教材の解説」「資料」を開き、教材名が意味していることや院内学級などについて確認し、教材の内容の見通しをもたせる。



【参考になるウェブサイト】



川崎医科大学附属病院
院内学級ウェブサイト

「院内学級の紹介(しょうかい)」や「行事予定」などで、川崎医科大学附属病院の院内学級の様子を知ることができます。

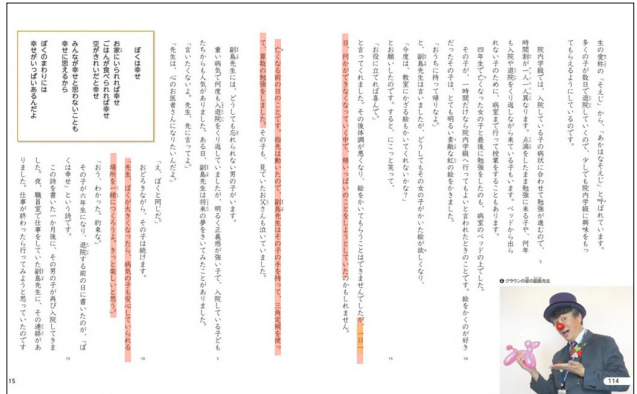


長野県立こども病院ウェブサイト
こども病院について

「院内学級ってどんな学校？」や「学習について」などで、長野県立こども病院にある院内学級のことについて知ることができます。

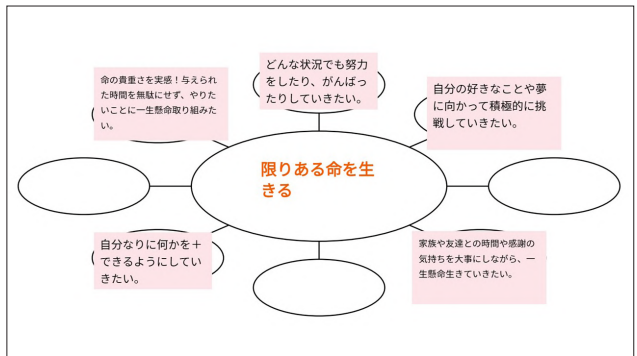
↑
へ
も
ど
る

- 心が動いたところに、マーカーで線を引く。



- T**：副島先生は、男の子との約束をどのような思いで守ろうとしているのでしょうか。
- ◎：最後にこの男の子に会えなかった思いを、約束を果たすことでかなえようとしている。
- ◎：男の子は亡くなってしまったが、その思いを受け継いでいきたいと思っている。
- ◎：副島先生は自分ががんばっていくことが、男の子の思いを生かすことにつながると考えているのだと思う。
- T**：副島先生と二人の子どもたちとの姿をおして、あなたはこれからどのように生きていきたいと思いましたか。
- ◎：命はあるだけで大切なものだから、そこに自分なりに何かをプラスできるようにしていきたい。
- ◎：どんな状況でも、今を大切に、努力をしたり、がんばったりしていきたい。
- ◎：命が有限だからこそ、自分の好きなことや夢に向かって積極的に挑戦していきたい。

- 「指導者用デジタル教材」の思考ツール(ウェビング)を活用し、出された意見をまとめていく。



展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習を振り返る。 ■：今日の学習で学んだことを振り返りましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援ソフトウェアで振り返りを記入するよう促す。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

本時では、「教材を読む場面」と「個々の考えを共有する場面」において、「指導者用デジタル教材」を活用した。

「教材を読む場面」では、範読前に「指導者用デジタル教材」の二次元コードから「教材の解説」「資料」を開き、教材名の意味や院内学級などについて確認した。これにより、児童が教材をより理解し、内容を深く受け止めることができるようになる。また、範読後には教材を読んで心が動いた箇所を児童どうしで共有する。その際、児童の意見を聞きながら、「指導者用デジタル教材」上でマーカーを使って線を引いていくことで、「人によって感じ方が違うんだ。」「やっぱり○○の部分に感動するよなあ。」など、多様な意見を即時に共有することができる。また、「なぜそのように感じたのか。」「なぜ○○の部分に線を引いたのか。」などについて話し合うことをとおして、多面的・多角的に考えることもできる。

「個々の考えを共有する場面」では、中心発問に対する児童の考えを全体で共有する際に「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」(ウェビング)を活用した。本時では、「副島先生と二人の子どもたちとの姿をとおして、あなたはこれからどのように生きていきたいと思いましたか。」という中心発問に対する児童の考えを「思考ツール」(ウェビング)上に可視化した。これにより、児童の意見を視覚的に捉えやすくするだけでなく、一見ばらばらに見える考えが関連づき、より深く理解できるようになる。また、児童の考えによって図がどんどん広がっていく様子から、一つの問いに対して多面的・多角的に考えるプロセスを視覚的に捉えることができる。